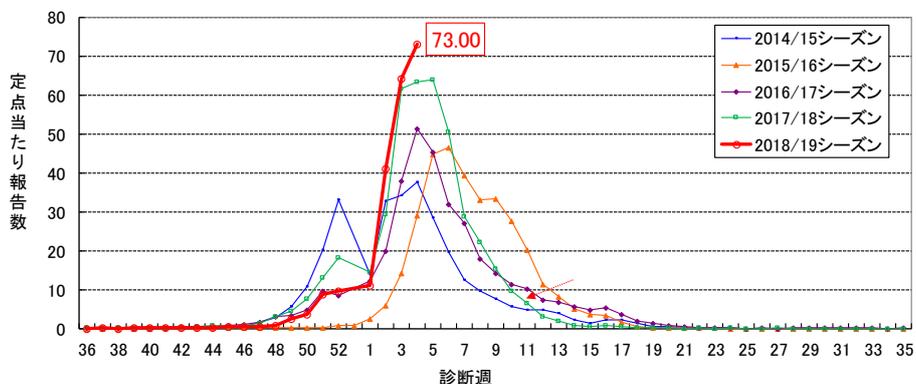


【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

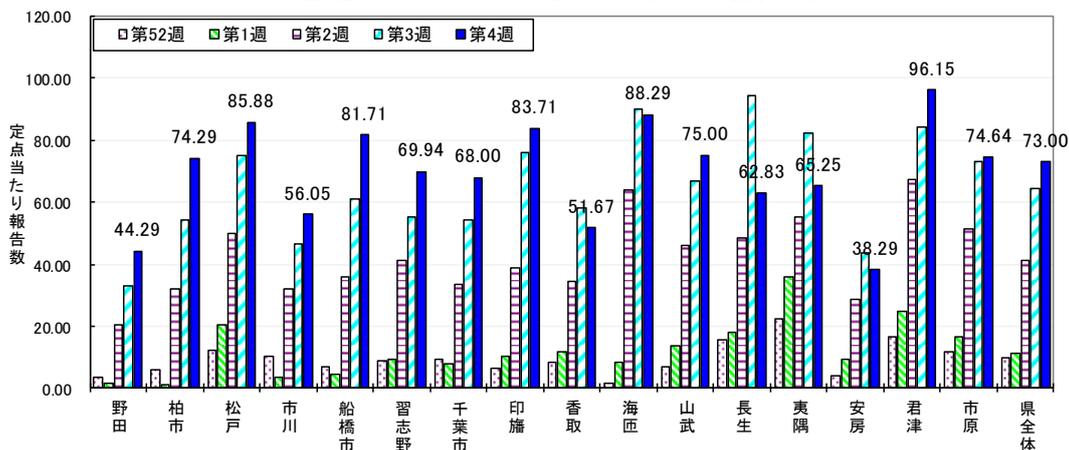
2019年第4週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は、定点当たり73.00（人）であった（図1）。

図1：県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移（シーズン別）



県内16保健所管内（千葉市、船橋市および柏市含む）の定点当たり報告数は、前週（第3週）は全ての保健所管内で前々週（第2週）と比較し増加したが、第4週には前週から減少した保健所管内も認められた。第4週に報告の多い上位3保健所管内とその定点当たり報告数は、君津保健所（96.15）、海匝保健所（88.29）、松戸保健所（85.88）であった。県レベルの定点当たり報告数73.00を超える保健所管内は、上記3保健所管内の他、印旛保健所（83.71）、船橋市保健所（81.71）、山武保健所（75.00）、市原保健所（74.64）、柏市保健所（74.29）であった（図2）。

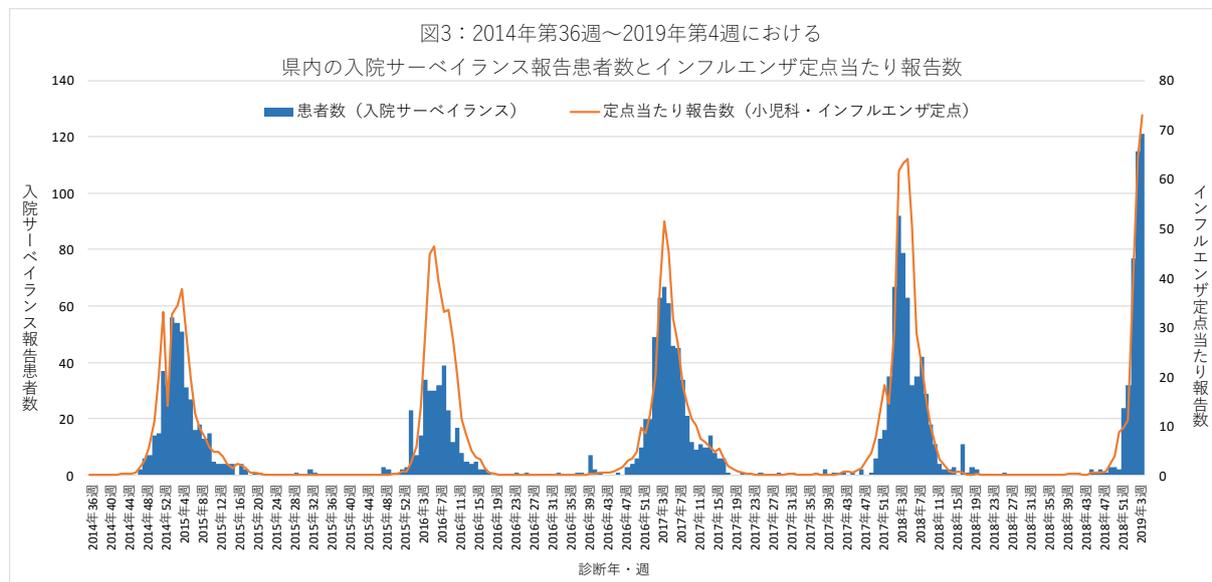
図2：直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移（保健所別）



2019年第4週の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告は、14,625例中A型14,507例（99.2%）、B型73例（0.5%）、A and B型10例（0.1%）、A or B型35例（0.2%）であった。2018/19シーズン合計では、43,452例中A型43,043例（99.1%）、B型286例（0.7%）、A and B型22例（0.1%）、A or B型101例（0.2%）となり、依然A型主流の傾向が続いている。

基幹定点（県内9医療機関）からのインフルエンザ入院サーベイランスの報告において、

第4週に121例の報告があった。年齢群別では80歳以上38例、70代28例、60代9例、50代8例、40代1例、30代0例、20代1例、10代5例、5～9歳7例、1～4歳15例、1歳未満9例の報告であった。入院サーベイランスにおいても、過去シーズンと比較して2018/19シーズンは報告が多い（図3）。



また、入院サーベイランスで今シーズンこれまでに報告された384例において、報告における入院時の医療・検査対応として、ICU入室が26例、人工呼吸器の利用12例、頭部CT検査等（頭部CT検査、頭部MRI検査、脳波検査の3つを含む。頭部CT検査等については実施予定を含む）85例となっており、過去シーズンと比較して、今シーズンは報告された患者全体に占めるICU入室、頭部CT検査等の記載のある患者の割合が高い（表1）。

表1：インフルエンザ入院サーベイランスにおける、患者入院時の医療・検査対応

		シーズン				
		2018/19	2017/18	2016/17	2015/16	2014/15
シーズン累積報告数		384	577	543	302	428
入院時の 医療・検査	ICU入室	26 (6.8)	28 (4.9)	31 (5.7)	13 (4.3)	22 (5.1)
	人工呼吸器の利用	12 (3.1)	11 (1.9)	17 (3.1)	13 (4.3)	26 (6.1)
	頭部CT検査等	85 (22.1)	88 (15.3)	70 (12.9)	46 (15.2)	65 (15.2)

()内は%

2018/19シーズンは2019年第4週までの状況

5類全数把握疾患である急性脳炎の届出が、2019年第1～4週に10例（第4週は4例）あり、うち7例について、病型としてインフルエンザウイルスを原因とする届出であった。報告数および重症化傾向の視点からも、今シーズンのインフルエンザの動向には注意が必要である。

現在、インフルエンザの報告が非常に多くなっており、人混みへの外出を控えることや飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュや腕の内側などで口や鼻を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。